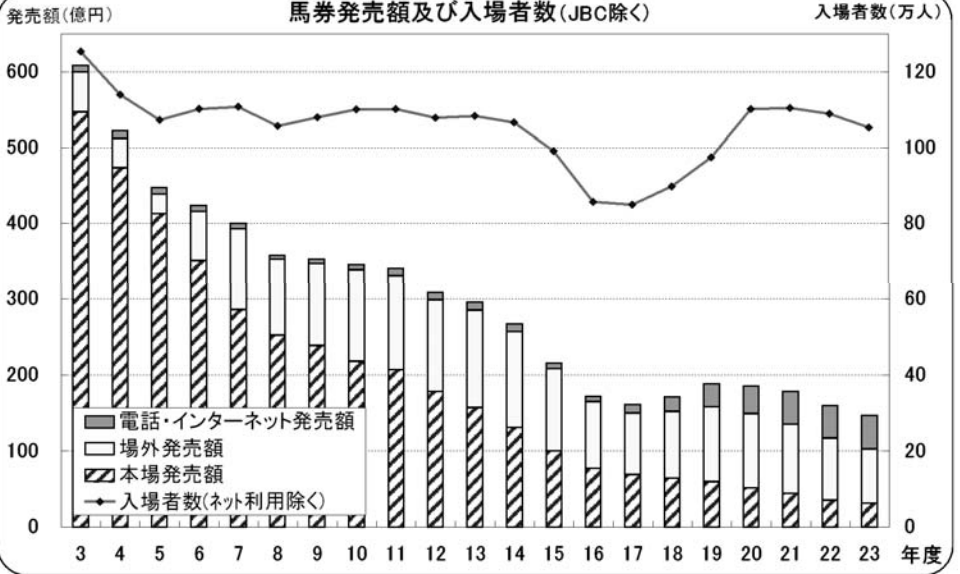
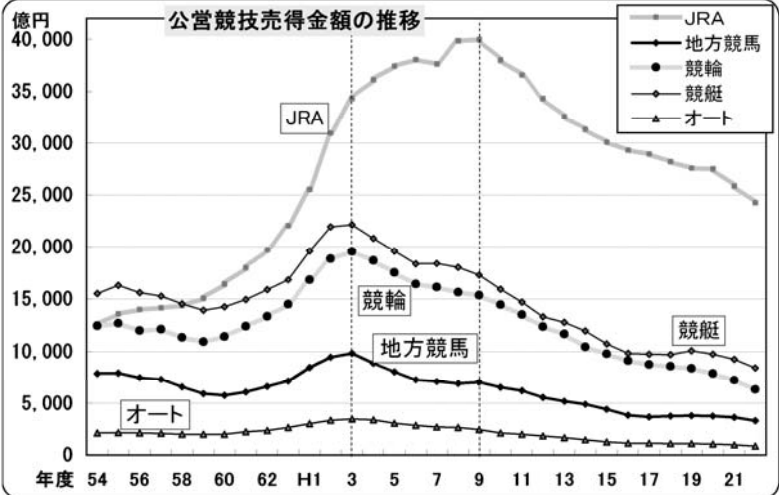


愛知県競馬組合の平成 17 年度以降の取組に対する評価

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考																																																	
売 上 げ の 状 況	<p>【最近における急激な売上の落ち込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは 1 人当たりの購入金額の減少が主な要因 ・平成 16 年度からは入場者数も一層落ち込んでいる。 <table border="1" data-bbox="341 415 1083 571"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">H 1 5</th> <th>H 1 6</th> </tr> <tr> <th>(H14 比)</th> <th>(H8 比)</th> <th>(前年 12/3 比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売上げ</td> <td>81.1%</td> <td>60.3%</td> <td>80.9%</td> </tr> <tr> <td>入場者数</td> <td>92.9%</td> <td>93.8%</td> <td>86.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H8：実質単年度収支赤字初期 ※入場者数には、ネット・電話利用者を含まない。</p>		H 1 5		H 1 6	(H14 比)	(H8 比)	(前年 12/3 比)	売上げ	81.1%	60.3%	80.9%	入場者数	92.9%	93.8%	86.0%	<p>【名古屋けいば本場 1 人あたり平均利用金額】</p> <table border="1" data-bbox="1172 346 1697 501"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>金額 (円)</th> <th>17 年度比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17</td> <td>19,793</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>17,894</td> <td>90.4</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>13,987</td> <td>70.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【名古屋けいば発売金構成割合の変化 (%)】</p> <table border="1" data-bbox="1172 562 1697 758"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">本場</th> <th colspan="2">場外</th> <th rowspan="2">ネット</th> </tr> <tr> <th>直営</th> <th>広域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17</td> <td>42.8</td> <td>16.2</td> <td>34.1</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>27.3</td> <td>14.2</td> <td>38.8</td> <td>19.8</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>21.1</td> <td>12.0</td> <td>36.7</td> <td>30.3</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	金額 (円)	17 年度比 (%)	17	19,793	—	20	17,894	90.4	23	13,987	70.7	年度	本場	場外		ネット	直営	広域	17	42.8	16.2	34.1	6.9	20	27.3	14.2	38.8	19.8	23	21.1	12.0	36.7	30.3	
			H 1 5		H 1 6																																															
		(H14 比)	(H8 比)	(前年 12/3 比)																																																
売上げ	81.1%	60.3%	80.9%																																																	
入場者数	92.9%	93.8%	86.0%																																																	
年 度	金額 (円)	17 年度比 (%)																																																		
17	19,793	—																																																		
20	17,894	90.4																																																		
23	13,987	70.7																																																		
年度	本場	場外		ネット																																																
		直営	広域																																																	
17	42.8	16.2	34.1	6.9																																																
20	27.3	14.2	38.8	19.8																																																
23	21.1	12.0	36.7	30.3																																																
<p>【全国の状況】</p> <p>地方競馬場は 24 場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方競馬全体の売上、平成 3 年度約 9,862 億円をピークに減少 ・入場者数、平成 3 年度以降約 1,466 万人減少 <p>15 年度決算見込では、4 主催者のみが黒字。</p> <p>廃止状況</p> <p>(13) 大分県中津競馬組合・新潟県競馬組合廃止、宇都宮市が撤退 (14) 島根県益田市が廃止し、栃木県足利市が廃止・撤退 (15) 山形県上山市が廃止</p>	<p>【地方競馬場運営場数】</p> <p>H16：24 場 → H24：16 場</p> <p>【16 主催者収支状況】</p> <p>H22 時点：黒字 8、赤字 8 (主催者発表)</p>	<p>〈近年の休廃止競馬場〉</p> <p>H16：群馬県競馬組合が廃止 H17：栃木県(宇都宮)廃止 H18：北海道市営組合廃止 → 帯広市単独で継続 (岩見沢、北見、旭川(ばんえい)) H20：北海道(旭川(平地))休止 H22：北海道(札幌)休止、中央は継続 H23：熊本県荒尾市(荒尾)廃止</p>																																																		
<p>【他の公営競技の状況】</p> <p>中央競馬</p> <p>10 か所の競馬場、33 か所の場外発売所 (ウインズ) 売上 平成 9 年 約 4 兆円、平成 15 年 約 3 兆円</p> <p>競輪、競艇、オートレース</p> <p>東海 3 県で 7 競輪場、3 競艇場 売上 平成 3 年がピーク</p>	<p>【公営競技の売上推移】 単位: 億円</p> <table border="1" data-bbox="1157 1255 1757 1579"> <thead> <tr> <th></th> <th>ピーク時</th> <th>⇒</th> <th>H22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J R A</td> <td>40,007 (H9)</td> <td>△39.3%</td> <td>24,276</td> </tr> <tr> <td>競 輪</td> <td>19,553 (H3)</td> <td>△67.5%</td> <td>6,350</td> </tr> <tr> <td>競 艇</td> <td>22,137 (H3)</td> <td>△61.9%</td> <td>8,435</td> </tr> <tr> <td>オート</td> <td>3,498 (H3)</td> <td>△75.4%</td> <td>861</td> </tr> <tr> <td>地方競馬</td> <td>9,862 (H3)</td> <td>△66.2%</td> <td>3,332</td> </tr> </tbody> </table>		ピーク時	⇒	H22	J R A	40,007 (H9)	△39.3%	24,276	競 輪	19,553 (H3)	△67.5%	6,350	競 艇	22,137 (H3)	△61.9%	8,435	オート	3,498 (H3)	△75.4%	861	地方競馬	9,862 (H3)	△66.2%	3,332																											
	ピーク時	⇒	H22																																																	
J R A	40,007 (H9)	△39.3%	24,276																																																	
競 輪	19,553 (H3)	△67.5%	6,350																																																	
競 艇	22,137 (H3)	△61.9%	8,435																																																	
オート	3,498 (H3)	△75.4%	861																																																	
地方競馬	9,862 (H3)	△66.2%	3,332																																																	
競馬組合 の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地方競馬を始めとして公営競技を取り巻く環境は依然として厳しい。 																																																			
委員会に おける 主な発言	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の売上見込みがこういった形で現実視されるか。言ってみればエビデンス (証拠・根拠) がどこにあるか。携わっている方々の意識も踏まえて、売上げ見込みということを考える必要がある。 ・色々やってみても、売上が減っていくというのは厳然たる事実だと思う。若い人をリクルートできないというのはわかっている。 																																																			

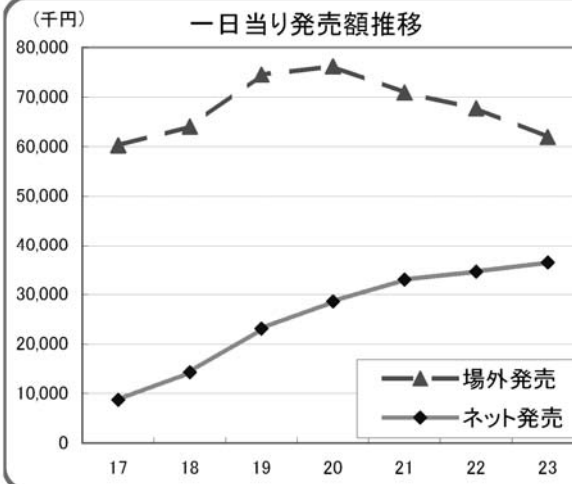
分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考																						
<p style="text-align: center;">制 度 改 正 等</p>	<p>【競馬制度上の問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央競馬と地方競馬の二重構造の解消がない限り、魅力あるレース内容や圧倒的なPR力を有する中央競馬へのファン流失は避けられない。 競馬法により単年度収支赤字でも売得金の約1%を地方競馬全国協会へ交付しており経営を圧迫。 今回(H16)の競馬法改正は、制度の抜本的な改革となっていない。 <p>〔H16 競馬法改正〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 競馬実施業務の一部を民間委託可 農林水産大臣同意による地方競馬全国協会交付金の一部猶予 競馬連携計画を作成して大臣認定で、1/2補助 	<p>【中央競馬と地方競馬の構造】</p> <p>二重構造は継続しているが、発売受委託等で連携が図られてきている。</p> <p>【法改正等の状況】</p> <p>○H17、H18 に愛知県が国へ要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方競馬全国協会の組織改正 地全協への交付金の還付、納付猶予 JRA から国への納付金の一部で経営安定対策などの支援 <p>H19 競馬法改正</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方競馬全国協会の組織改正 開催日程・番組編成の調整等を地方競馬全国協会の業務に追加 競馬連携事業の対象を拡充（競馬活性化事業）、期間2年間延長。 交付金の納付猶予、還付制度の創設 →収支が著しく不均衡の場合に限定 <p>○H21 に公営競技4団体から国へ公営競技納付金の廃止要望</p> <p>H22 地方財政法など関係法令の改正（納付金関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> 納付金制度は27年度まで延長 21年度決算から基礎控除額拡大(20→40億)、納付率引下げ(1.1~1.2%→1.0%) 23年度決算から累積赤字がある場合、単年度黒字でも納付免除。 <p>○H23 に全国主催者協議会会長が代表で国へ交付金の減額措置等を要望</p> <p>H24.6.20 改正競馬法が参院本会議で可決、成立</p> <ul style="list-style-type: none"> 馬券払戻金率下限の変更 75%→70%（3年以内に政令により施行予定） H19 法改正時限措置分延長(5ヵ年) 	<p>〈地方競馬全国協会交付金〉</p> <p>競馬法の規定により、畜産振興等を目的として、各地方競馬主催者は、売得金額に応じた交付金を地方競馬全国協会に支払う。</p> <table border="1" data-bbox="2279 436 2789 609"> <thead> <tr> <th colspan="3">愛知県競馬組合交付金支出額（円）</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>1号交付金</th> <th>2号交付金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23年度</td> <td>82,126,661</td> <td>35,177,224</td> </tr> <tr> <td>22年度</td> <td>90,997,939</td> <td>38,531,402</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈公営競技納付金〉</p> <p>地方財政法に基づき、地方公共団体金融機構へ、馬券発売額から基礎控除額を除いた額に納付率を掛けた額を納付する。（納付限度額の規定あり）</p> <table border="1" data-bbox="2279 844 2789 1060"> <thead> <tr> <th colspan="2">愛知県競馬組合納付金支出額（円）</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>納付額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23年度（22年度分）</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>22年度（21年度分）</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>21年度（20年度分）</td> <td>7,139,259</td> </tr> </tbody> </table>	愛知県競馬組合交付金支出額（円）			年度	1号交付金	2号交付金	23年度	82,126,661	35,177,224	22年度	90,997,939	38,531,402	愛知県競馬組合納付金支出額（円）		年度	納付額	23年度（22年度分）	0	22年度（21年度分）	0	21年度（20年度分）	7,139,259
愛知県競馬組合交付金支出額（円）																									
年度	1号交付金	2号交付金																							
23年度	82,126,661	35,177,224																							
22年度	90,997,939	38,531,402																							
愛知県競馬組合納付金支出額（円）																									
年度	納付額																								
23年度（22年度分）	0																								
22年度（21年度分）	0																								
21年度（20年度分）	7,139,259																								
<p style="text-align: center;">競馬組合 の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中央競馬と地方競馬の二重構造は継続しているが、発売受委託等で一定の連携が図られてきている。 地方競馬全国協会交付金制度は、条件付きで納付猶予、還付制度が創設されたが、廃止・減額等の抜本的な改革がなされていない。 公営競技納付金制度は、基礎控除額、納付率の引き下げが行われたこと、また、平成23年度決算からは累積赤字がある団体は、納付が免除されたこと、などについて評価できる。 平成24年6月の競馬法改正により、払戻率の下限が従来の75%から70%に引き下げられ、弾力化が図られることは、各主催者の経営戦略の幅が広がるものとして評価できる。 																								
<p style="text-align: center;">委員会に おける 主な発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 																								

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考																								
地域との連携・魅力向上	<p>【生活・趣味の多様化】</p> <p>・生活・趣味の多様化で、競馬ファンが急速に減少。今後も続くと思われ、特に若年層に顕著。新規ファンの開拓は極めて難しい。</p>	<p>【新規ファン獲得のための企画】</p> <p>・レディースデー(女性火曜入場無料)、ハッピーマンデー(月曜入場無料)の実施</p> <p>・ファミリー層向けイベント(夏まつり(縁日)、ミニチュアホースとのふれあいなど)</p> <p>・マスコットキャラクターの公募・命名(ドリームゲッターズ)</p> <p>・デビュー競走馬の名前募集企画、名古屋けいばフォトコンテスト企画</p> <p>・他場ナイター競馬受託発売の拡大(会社帰りのサラリーマン向け) 等</p>	<p><余暇市場(うちギャンブル)全体の動向></p> <p>H3 : 822,650 億円 (95,820 億)</p> <p>H16 : 812,720 億円 (64,480 億)</p> <p>H22 : 679,950 億円 (53,640 億)</p> <p>※出展 : レジャー白書 2011</p>																								
	<p>【ファンサービスのためのイベント】</p> <p>イベントは経費をかけず、マスコミ等に興味を持って取材されるようなアイデアを出し、できる限り速やかに、かつ、積極的に行うべき。</p> <p>また、イベント内容の決定や実施には、地元や社会に対して、貢献していくという観点も重要。</p>	<p>【積極的な情報発信】</p> <p>・スポーツ紙を始め、一般紙やテレビ局などのマスコミ等にも積極的な情報提供(一般紙、テレビ局等への記者発表件数 H23 実績 31 件)</p> <p>・リアルタイムな情報発信のためホームページを刷新(H23.11~)(トピックス、ファンサービス、イベントの随時更新など)(1日当りのアクセス数) 約 60 件 → 約 1,200 件(MAX5,444 件)</p> <p>【地元や社会への貢献】</p> <p>《社会貢献事業》</p> <p>・盲導犬募金箱の設置、児童虐待防止イベント、心身障害者の心の病をいやす馬とのふれあいなど、を実施(オレンジリボン協賛秋まつり、盲導犬協会協賛秋まつり、ホースセラピーイベント)</p> <p>《地元周辺との交流》</p> <p>・市町村や商工会へ場内賑やかしの協力依頼(場内で県内名産品の配付や物販)</p> <p>・地元住民へ場内イベントへの参加の呼びかけ(地元小中学校吹奏楽部、地元アマチュアバンドなどのコンサートなど)</p>																									
	<p>【関係者の協力】</p> <p>・経営者だけでなく組合全職員の意識改革と競馬関係者の協力が必要</p> <p>・職員及び競馬関係者(組合職員、調教師、騎手、厩務員)の相互協力や経営参画への意識が希薄</p> <p>・関係者毎のまとまりはあっても、総じて競馬場内の自己完結な活動</p> <p>県民にもっと名古屋競馬を良く理解して貰うためには、努力する姿勢を対外的に示す必要あり</p>	<p>【競馬関係者と協力して実施した主な企画】</p> <p>・名古屋競馬場秋まつりの開催(H22、H23)</p> <p>・場内一斉清掃(H24)</p> <p>・トレセン見学ツアー及びジョッキーとのソフトボール大会(H24)</p> <p>・ジョッキーオークション、サイン会など</p> <p>・競馬開催日(祝祭日)にミニチュアホースとのふれあい(名古屋競馬振興協議会協力)</p> <p>【競馬組合職員が協力して実施】</p> <p>・開門から朝の1時間、交代制で入場門でのお客様のお出迎え・挨拶を実施</p> <p>・職員総出で、定期的に、場内の草刈りや本馬場の石拾いなど実施</p>																									
	<p>【名古屋競馬の特色の活用】</p> <p>人口集積地である名古屋市のなかにあり、交通網も発達していることから地の利を生かし、競馬ファンにとっても身近な競馬場として経営改善に活かすという考え方が必要であった。</p>	<p>【あおなみ線利用者へのPR】</p> <p>・11 駅に名古屋けいばポスターを掲示、主要駅に「競馬場らし」を設置</p> <p>・名古屋競馬場前駅にのぼり設置</p> <p>・あおなみ線往復切符利用客に有料席サービス(H23 利用者 : 4,137 人)</p>	<p><本場の1日あたりの入場者数推移></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>(人)</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17</td> <td>2,725</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>2,554</td> <td>93.7%</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>2,430</td> <td>95.1</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>2,193</td> <td>90.2</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>2,060</td> <td>90.4</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>1,904</td> <td>92.4</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>1,816</td> <td>95.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※JBC 競走 当日除く</p>	年度	(人)	前年比	17	2,725	-	18	2,554	93.7%	19	2,430	95.1	20	2,193	90.2	21	2,060	90.4	22	1,904	92.4	23	1,816	95.4
	年度	(人)	前年比																								
17	2,725	-																									
18	2,554	93.7%																									
19	2,430	95.1																									
20	2,193	90.2																									
21	2,060	90.4																									
22	1,904	92.4																									
23	1,816	95.4																									
<p>【あおなみ線開通にあわせた集客】</p> <p>「あおなみ線」が開通し、「名古屋競馬場前駅」までは直通12分、駅から徒歩わずか5分という好立地となった。</p> <p>来場者の快適性や利便性が高まっただけでなく、施設名称自体が駅名となったことによって、名古屋競馬の認知度や地域密着度が一層向上すると期待されるが、来場者の増加につなげるためには、積極的なイベント開催や広報活動が必要である。</p>	<p>【名古屋市交通局市利用者へのPR】</p> <p>・地下鉄・バスの1日乗車券・土日エコ切符利用者の入場無料(H23 利用者 : 511 人)</p> <p>【交通機関とのタイアップ企画】</p> <p>・あおなみウォーク 来場者数(H23 : 約 230 人、H24 : 約 300 人)</p> <p>・名古屋市交通局の駅近ウォーク 来場者数(H24 : 約 4,500 人)</p> <p>・あおなみ線駅設置の「あそびばナビ」へ無料入場券(H23 利用者 : 1429 人)</p>	<p><無料バス(神宮前発・東海通経由)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>区分(運行数)</th> <th>年間利用者</th> <th>1日当たり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">17</td> <td>往路(8運行)</td> <td>35,196人</td> <td>272.8人</td> </tr> <tr> <td>帰路(8運行)</td> <td>36,324人</td> <td>281.6人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">23</td> <td>往路(6運行)</td> <td>14,900人</td> <td>122.1人</td> </tr> <tr> <td>帰路(4運行)</td> <td>16,869人</td> <td>138.1人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・経費節減のため、本数減 往路 H17 : 4 台 8 運行 → H24 : 2 台 4 運行 帰路 H17 : 8 台 8 運行 → H24 : 4 台 4 運行</p>	年度	区分(運行数)	年間利用者	1日当たり	17	往路(8運行)	35,196人	272.8人	帰路(8運行)	36,324人	281.6人	23	往路(6運行)	14,900人	122.1人	帰路(4運行)	16,869人	138.1人							
年度	区分(運行数)	年間利用者	1日当たり																								
17	往路(8運行)	35,196人	272.8人																								
	帰路(8運行)	36,324人	281.6人																								
23	往路(6運行)	14,900人	122.1人																								
	帰路(4運行)	16,869人	138.1人																								

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考								
地域との連携・魅力向上	<p>【魅力あるレースの提供】 競走の要素は、「馬」と「番組」。 馬：より強い馬づくりやスターホースの育成 番組：中央競馬や他の地方競馬との交流競走の充実 話題性のある馬や騎手の招待競走 広く公募による冠レースの導入</p> <p>この他にも、他の地方競馬と案を出し合ったり、民間に発案を委託するなどの方法により、驚きのあるレースの実施が望まれた。</p>	<p>【番組づくりの工夫】 実力が拮抗した魅力あるレースをファンに提供するため、22年度以降、毎年度、番組編成の見直しを行っている。</p> <table border="1" data-bbox="1160 409 1941 577"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>主な見直し点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22</td> <td>転入馬(JRA)の格付け、番組賞金の調整額 等</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>転入馬の控除率、出走制限馬の転入条件 等</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>階級別格付賞金、賞金控除率 等</td> </tr> </tbody> </table> <p>【地方競馬全体のシリーズ競走の確立及び全国競走（全国発売）の実施】 名古屋競馬場は、地方競馬全国協会が企画した全てのシリーズに参画 ・2歳馬の未来優駿シリーズ（ゴールドウィング賞） ・3歳馬のダービーウィークシリーズ（東海ダービー） ・牝馬のグランダムジャパンシリーズ（東海クイーンカップ、秋桜賞） ・短距離のスーパースプリントシリーズ（名古屋でら馬スプリント競走）</p> <p>【日本中央競馬会（JRA）、他地方競馬場との交流】 ・1開催におおむね1競走程度、JRAとの交流競走を実施 ・笠松、金沢を始め他場との交流競走の実施</p> <p>【広く公募による冠協賛レースの導入】 ・17年度から公募による冠協賛レースを実施</p>	年度	主な見直し点	22	転入馬(JRA)の格付け、番組賞金の調整額 等	23	転入馬の控除率、出走制限馬の転入条件 等	24	階級別格付賞金、賞金控除率 等	<p><その他各競馬場持ち回り実施の全国発売レース> ・スーパージョッキーズトライアル競走(H23) ・レディーズジョッキーズトライアル競走(H22) ・JBC競走の実施(H17、H21)</p> <p><JBC競走当日の売上額> H17：18.7億円、H21：16.2億円</p> <p><23年度JRAとの交流競走実績> 24競走(21競走+ダートグレード3競走)</p> <p><冠協賛レースの状況> H17：111件（個人101、企業10） →H23：166件（個人143、企業23）</p>
年度	主な見直し点										
22	転入馬(JRA)の格付け、番組賞金の調整額 等										
23	転入馬の控除率、出走制限馬の転入条件 等										
24	階級別格付賞金、賞金控除率 等										
競馬組合の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・収益率の高い本場の売上が重要であることから、ハッピーマンデーを始めとして様々なファンサービスを実施しているが、入場者の高齢化が進み、本場の入場者数が減少しているため、引き続き新規ファンの獲得は急務であると考えており、今後もファンサービスは重要と考えている。 ・ダービーシリーズのように、地方競馬間が連携し、話題性のあるレースづくりに努め全国発売を実施することにより、その開催時には売上増につなげることができた。 ・名古屋競馬の地域環境を活かして、名古屋市交通局、あおなみ線とタイアップした企画を実施したことにより、企画実施日における本場入場者の増につながった。 										
委員会における主な発言	<ul style="list-style-type: none"> ・もし廃止等になると、既存のあおなみ線の問題とか、交通体系の問題も含めて全体的な地域づくりということも考慮しなくてはならない。 ・今までギャンブルという風に捉えられてきたことが、レジャーとか遊び心とか「ゆとり」とか、癒しの部分とか、動物との「絆」などの部分のウエイトが高くなれば、県民の皆さんの意識も少し高まるのではないかという気がする。 ・周辺環境の整備を、競馬関係者のボランティア的な取り組みでできないかなと思う。 ・若い方を対象に競馬の魅力を知ってもらうために、前回以後、特にどういったことをやられてきたのか。 ・他の企業と共同でイベントをやることなどは可能だと思う。 										

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考																																																												
施設改修・運営	<p>【施設改修の困難性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設改修が必要（経営診断報告書※による必要投入額） 競馬場：15億円～25億円 弥富トレセン：10億円～20億円 トータル：25億円～45億円 馬券売上収入が急減しているため、独自費用の捻出はできない。 	<p>【17年度以降の主な施設改修箇所】</p> <table border="1" data-bbox="1151 352 2175 674"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>主な改修箇所</th> <th>工事費総額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17</td> <td>入場門、外壁塗装、スタンド分煙化、トイレ、総合案内所の新規設置</td> <td>263,682</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>駐車場整備、場内渡り通路の屋根取付、場内テレビの大型化</td> <td>38,642</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td></td> <td>35,700</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td></td> <td>34,080</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>グランビスタ、第3スタンド、待機馬房、他場ナイター発売用照明</td> <td>242,392</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>パトック舗装</td> <td>34,204</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td></td> <td>21,885</td> </tr> </tbody> </table> <p>※工事費総額は、本場及び場外施設に係る施設工事費及び修繕費の計</p> <p>【耐震改修について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震改修については、第3スタンド以外は未改修 その後の売上げも減少しており、大規模改修費を捻出できる状況にない ※第3スタンドについて 21年度にJBC対策工事において、第3スタンドの大屋根の撤去及び改修工事（工事費総額63,590千円）を実施。→耐震上問題なし。 	年度	主な改修箇所	工事費総額(千円)	17	入場門、外壁塗装、スタンド分煙化、トイレ、総合案内所の新規設置	263,682	18	駐車場整備、場内渡り通路の屋根取付、場内テレビの大型化	38,642	19		35,700	20		34,080	21	グランビスタ、第3スタンド、待機馬房、他場ナイター発売用照明	242,392	22	パトック舗装	34,204	23		21,885	<p><17年度土地売却益 14.9億円></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備充当→150百万円 経営再建事業推進基金積立→317百万円 <p><本場の耐震診断結果（H15実施）> 対象：5棟・・・新耐震基準（S54）前の建築</p> <table border="1" data-bbox="2234 489 2769 705"> <thead> <tr> <th>建物</th> <th>階数</th> <th>不合格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1スタンド</td> <td>2</td> <td>1、2階の一部</td> </tr> <tr> <td>第2スタンド</td> <td>4</td> <td>1、2階</td> </tr> <tr> <td>第3スタンド</td> <td>2</td> <td>2階（21年度改修済）</td> </tr> <tr> <td>東スタンド</td> <td>2</td> <td>1、2、3階</td> </tr> <tr> <td>競馬会館</td> <td>3</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>概算改修経費 約266,000千円</p> <p><弥富トレセンの耐震診断結果（H16実施）> 対象：9棟・・・新耐震基準（S54）前の建築</p> <table border="1" data-bbox="2234 821 2769 1037"> <thead> <tr> <th>建物</th> <th>階数</th> <th>不合格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>騎手会館</td> <td>6</td> <td>1～3階</td> </tr> <tr> <td>厩務員会館</td> <td>6</td> <td>1～4階</td> </tr> <tr> <td>馬事会館</td> <td>7</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>宿舎3DK</td> <td>4</td> <td>（4棟）1・2階</td> </tr> <tr> <td>宿舎2DK</td> <td>4</td> <td>（2棟）1階</td> </tr> </tbody> </table> <p>概算改修経費 約312,000千円</p>	建物	階数	不合格	第1スタンド	2	1、2階の一部	第2スタンド	4	1、2階	第3スタンド	2	2階（21年度改修済）	東スタンド	2	1、2、3階	競馬会館	3	なし	建物	階数	不合格	騎手会館	6	1～3階	厩務員会館	6	1～4階	馬事会館	7	なし	宿舎3DK	4	（4棟）1・2階	宿舎2DK	4	（2棟）1階
	年度	主な改修箇所	工事費総額(千円)																																																												
	17	入場門、外壁塗装、スタンド分煙化、トイレ、総合案内所の新規設置	263,682																																																												
18	駐車場整備、場内渡り通路の屋根取付、場内テレビの大型化	38,642																																																													
19		35,700																																																													
20		34,080																																																													
21	グランビスタ、第3スタンド、待機馬房、他場ナイター発売用照明	242,392																																																													
22	パトック舗装	34,204																																																													
23		21,885																																																													
建物	階数	不合格																																																													
第1スタンド	2	1、2階の一部																																																													
第2スタンド	4	1、2階																																																													
第3スタンド	2	2階（21年度改修済）																																																													
東スタンド	2	1、2、3階																																																													
競馬会館	3	なし																																																													
建物	階数	不合格																																																													
騎手会館	6	1～3階																																																													
厩務員会館	6	1～4階																																																													
馬事会館	7	なし																																																													
宿舎3DK	4	（4棟）1・2階																																																													
宿舎2DK	4	（2棟）1階																																																													
<p>【ナイター競馬開催の困難性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ナイター開催は、馬券売上収入に一定の効果はあるが暫定的。 市場規模縮小傾向を反転させるだけの力はない。 効果維持には、観戦施設、飲食施設等の改修が必要。 経営診断では、ナイター開催と施設の大規模改修で約30億円必要。費用対効果及び資金調達面から実現は難しい。 →赤字経営からの脱却はできない。現時点での方策と考えられない。 	<p>【地方競馬ナイター競馬実施状況】</p> <p>現在、5競馬場ナイター競馬を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 大井競馬場（S61～） 川崎競馬場（H7～） 帯広競馬場（H19～） 門別競馬場（H21～） 高知競馬場（H21～） <p>H24.9 園田競馬で開始予定。</p>	<p>8年度に名古屋競馬場ナイター発売実施について、地元の同意を得られず、9年度に断念した経緯がある。</p>																																																													
<p>【中京競馬場での開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在130日開催、今後100日程度まで減少が見込まれるが、中京での併催にはJRAの使用日数105日、名古屋競馬の約100日と、年間の使用日数が倍増するため、あらためて中京競馬場周辺の住民同意が必要。 中京競馬場は、耐震改修等計画があり、最大1年以上開催不可。通常の施設改修でもJRAの開催優先で制限を受ける可能性有。 収入面では概ね15%の売上増を見込むが、支出面では賃金、警備費等で10%強の増が見込まれるため収支の好転は難しい。 ・ほぼ施設借上料分だけ赤字額が拡大すると見込まれる。 	<p>競馬を取り巻く状況については、16年当時より厳しさを増しており、中京競馬場での開催の実現可能性は当時より更に厳しいものとなっている。</p>	<p><中京競馬場施設の大規模改修> 東側スタンドが老朽化して耐震基準を満たさなくなったため、コースと合わせて大規模改修工事を実施。 H24.3.7にリニューアルオープン 工期：H22.3～H24.2 総事業費：173億7000万円</p>																																																													

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考																						
施設改修・運営	<p>【弥富トレセンへの移転】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地は約 77ha と広大、練習馬場、競馬管理施設、厩舎、管理運営用施設、関係者用宿舎等の施設を保有。 開催にはスタンドやパドック、駐車場などが新規に必要。 ナイター競馬の開催にあたっては環境面からの制約は低い。 距離、時間からみた人口が名古屋競馬場に比較して少ないこと、公共交通機関によるアクセスが不便であり集客力が相当に劣る。 ナイター競馬の増収効果が期待できても、収支の黒字化は困難。 	<p>今年度、愛知県が経営診断で再度シミュレーションを行う予定。</p>	<p>弥富トレセンは、名古屋競馬場と比べると公共交通機関でのアクセスが不便であるが、道路アクセスの利便性は向上している。</p> <p>また、近年馬券売上げに占める割合は、本場よりインターネットの占める割合が大きくなってきている。</p> <p>〈名古屋けいば発売金構成割合の変化〉 (%)</p> <table border="1" data-bbox="2279 594 2804 821"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">本場</th> <th colspan="2">場外</th> <th rowspan="2">ネット</th> </tr> <tr> <th>直営</th> <th>広域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17</td> <td>42.8</td> <td>16.2</td> <td>34.1</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>27.3</td> <td>14.2</td> <td>38.8</td> <td>19.8</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>21.1</td> <td>12.0</td> <td>36.7</td> <td>30.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈弥富トレセン～名古屋競馬場の馬輸送費〉 名古屋けいば開催に係る馬輸送費は、主催者が負担 H23 実績 134,112,500 円</p>	年度	本場	場外		ネット	直営	広域	17	42.8	16.2	34.1	6.9	20	27.3	14.2	38.8	19.8	23	21.1	12.0	36.7	30.3
年度	本場	場外				ネット																			
		直営	広域																						
17	42.8	16.2	34.1	6.9																					
20	27.3	14.2	38.8	19.8																					
23	21.1	12.0	36.7	30.3																					
競馬組合の評価	<ul style="list-style-type: none"> 本場及び弥富トレーニングセンターの耐震工事の必要性は認識しているが、厳しい財政状況から整備には至っていない。 弥富トレセンは、交通アクセスが不便であるが、近年馬券売上に占める割合は、本場よりインターネットの占める割合が大きくなってきていることを踏まえ、弥富トレセンへの移転について、愛知県が経営診断で再度シミュレーションを行う予定。 																								
委員会における主な発言	<ul style="list-style-type: none"> 改修費等の留保を積んでいないので、設備投資ができない苦しい状況となっている。 市民の方々の税金の投入に対する視点は厳しい。 施設改修費は維持が精一杯で建物を建て替えてまではとてもやっていけないというのが、他事例でもかなり多いのが現状である。 こういう集客施設で客サービスをやっているところで、施設改修を抜きにして運営努力だけでできるのか疑問である。 施設改修のため、コンセッション方式も検討してみてもどうか。 																								

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考																								
馬券販売の効率化・多様化	<p>【電話投票、専用場外、場間場外】 競馬ファンは、映像によるバーチャルファンに移っているため、インターネット・電話投票の拡充は売上げ向上に有効。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットを活用したリアルタイムのレース映像の放映 ・ D-net 会員の拡大 ・ ネットバンクによる電話投票システムの早期導入 ・ 他場との連携強化 <p>専用場外発売所は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置場所を的確に選定 ・ 売上規模に見合った無理のない設備投資 ・ 他の地方競馬主催者と共同で設置 など <p>が考えられるが、相当の期間を要する。</p> <p>商圈拡大を図る上では、広域場間場外発売を積極的な展開必要。</p>	<p>【ネット販売の全国的な動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネット販売の売上げが全国的に増加 <p>【ネット利用者を意識した売上振興策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CS 放送による実況中継 (H23. 4～) ・ CATV (スターキャット) によるダイジェスト放送の放映 (H23. 6～) ・ 競馬専門誌による無料予想付出走表の配信 (H24. 4～) ・ スマートフォン対応として、ユーストリームによる競馬実況中継の配信 (H24. 4～) <p>【専用場外の新設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大須場外 H19 新設 ・ 一宮場外 新設調整中 <p>【広域発売連携】</p> <p>《他場委託発売》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他地区との連携による広域発売の拡充 ・ 地方競馬主催ダートグレード競走の全レース発売 ・ (H24 秋以降) 川崎専用場外施設 (浜松) で、4R～最終 R まで名古屋けいば全開催日発売 <p>《他場受託発売》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リレーナイター発売 (H20～) (H24 : 予定 140 日) ・ 三場発売を開始 (H22～) ・ 昼 2 場併売 + ナイター 1 場を施行 (H23～) 	<p>＜地方競馬の電話投票等＞</p> <table border="1" data-bbox="2240 336 2804 535"> <thead> <tr> <th rowspan="2">委託先</th> <th rowspan="2">会員数 (万人)</th> <th colspan="2">委託料率 (売得金 × %)</th> </tr> <tr> <th>電話</th> <th>ネット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オッズパーク</td> <td>約 26</td> <td>10%</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>楽天競馬</td> <td>約 13</td> <td>—</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>S P A T 4</td> <td>約 35</td> <td>—</td> <td>16%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>＜他場委託発売 全日・レース発売実績 (H23)＞</p> <table border="1" data-bbox="2270 1060 2700 1165"> <tbody> <tr> <td>全日発売</td> <td>4,498,457,500 円</td> </tr> <tr> <td>レース発売</td> <td>886,988,600 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,385,446,100 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜他場受託発売による業務協力費収入＞ H23 : 850,282,753 円</p>	委託先	会員数 (万人)	委託料率 (売得金 × %)		電話	ネット	オッズパーク	約 26	10%	12.5%	楽天競馬	約 13	—	11%	S P A T 4	約 35	—	16%	全日発売	4,498,457,500 円	レース発売	886,988,600 円	計	5,385,446,100 円
	委託先	会員数 (万人)	委託料率 (売得金 × %)																								
			電話	ネット																							
オッズパーク	約 26	10%	12.5%																								
楽天競馬	約 13	—	11%																								
S P A T 4	約 35	—	16%																								
全日発売	4,498,457,500 円																										
レース発売	886,988,600 円																										
計	5,385,446,100 円																										
<p>【改正競馬法への対応】</p> <p>ア 他場との連携</p> <p>主催者が連携化計画を作成し、地方競馬全国協会から補助を受け、共同設置したトータリゼータシステム等の施設整備が可能となった。</p>	<p>【広域連携に係る地方競馬全国協会からの補助金】</p> <p>広域連携に必要な経費として認められれば、競馬活性化事業の補助対象</p> <p>【笠松、金沢との連携】</p> <p>笠松、金沢 (特に冬季) とは、開催日調整や相互場外販売、人馬交流などで連携</p>	<p>＜主な補助事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共同トータリゼータシステム等のインフラ整備 ・ 笠松、金沢との共同広報 (CS 放送の実施) ・ 場外発売ナイター照明設備整備 等 <p>＜21～23 年度補助対象事業費＞ 578,182 千円 (補助金額累計 399,353 千円)</p>																									
<p>イ JRA との馬券発売相互受委託</p> <p>自動発売機、自動払戻機等の新規導入に 6 億円以上の投資が必要投資額を考えると、手数料率やファンの増減など、採算性を十分に見極める必要がある。</p> <p>また一方、JRA が地方競馬の馬券発売を受託することに対して積極的でないため、早期実現が難しい。</p>	<p>【JRA 委託発売】</p> <p>JRA と地方競馬の連携により、24 年 10 月より I-PAT 会員において、地方競馬の一部レース馬券を購入可能。</p> <p>※名古屋競馬対象レース (H24) → 22 日間が発売対象 ダートグレードレース (名古屋グランプリ JpnⅡ (12 月)、名古屋大賞典 JpnⅢ (3 月)) など</p> <p>【JRA 受託発売】</p> <p>25 年春より、地方競馬でも JRA 馬券の発売が可能となるため実施に向け、調整中</p> <p>【その他】</p> <p>JRA での自動発売機等の更新時に使用可能な機器払い下げにより経費削減</p>	<p>＜JRA 委託発売＞</p> <p>24 年 10 月以降発売見込み (純増分)</p> <p>発売見込額 約 1,000 百万円</p> <p>収益見込み (140 百万円)</p> <p>※地方競馬全国協会による試算</p> <p>＜I-PAT (JRA 電話投票システム) 会員数＞ 約 309 万人 (A-PAT209 万人、即 PAT100 万人)</p>																									

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考
馬券販売の効率化・多様化	<p>ウ 三連勝式、重勝式投票</p> <p>三連勝式が、購入単価引上げや売上向上になるかは期待できない。しかし、18のうち9主催者が三連勝式を導入。</p> <p>他場との連携、広域場間場外発売及び中央競馬との馬券の相互発売を進めるには導入が必要。</p> <p>重勝式は極めて的中率は低いが、高配当が期待できる新種馬券の導入が可能。実施する場合の投資金額や後年度負担を見極めるべき。</p>	<p>【三連勝式について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・17年度より名古屋競馬場においても三連勝式を導入。 ・現在、三連単60%、三連複13%以上と名古屋けいば馬券発売の7割以上 <p>【重勝式について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋けいばでは、導入の予定なし ・重勝式を導入している競馬場 ばんえい、佐賀、福山、岩手、笠松、園田の6競馬場 ※発売はネット発売（オッズパーク）のみ 	<p>〈重勝式導入競馬場(6主催者)の23年度実績〉 オッズパーク売上げのうち、重勝式の発売割合：約2.1%（1日平均2,232万円）</p> <p>〈その他〉 24年6月からワイド馬券(拡大馬番号連勝複式)を導入。（枠番連勝単式廃止）</p>
	<p>エ 民間委託</p> <p>勝馬投票券の発売、競馬場内外の警備、入場料徴収を民間委託可。競馬番組決定、出走申込み受付、検量、発走合図など競走の実施事務は、公益法人へ委託可となった。</p> <p>コスト削減、売上向上の観点から委託可能か検討する必要あり。</p> <p>なお、民間委託は競馬事業の効率化をもたらす反面、持続的、安定的に事業が実施できるか、競馬運営に携わる人々の生計に与える影響などを考慮する必要あり。</p>	<p>【民間委託について】</p> <p>《投票業務》 H17～ 投票窓口業務（本場、中京場外、サンアール弥富・磯部）を委託 H24～ 投票システム制御センターの運用業務を委託</p> <p>《場外発売運営業務》 H17～ 地方競馬共同場外発売所（BA00）における場外発売運営業務を委託</p> <p>《電話投票業務》 H18～ インターネット投票システムを利用する投票業務を委託（オッズパーク、楽天競馬）</p>	
競馬組合の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる発売額は年々増加しており、その対策が必要であるため、平成24年から新たに「競馬専門誌の協力による無料予想付出走表の配信」や「ユーストリームによる競馬実況中継」を実施している。また、これにより平成24年10月から始まるJRAの委託発売に備えたいと考えている。 ・他場の受託発売に係る業務協力費収入についても、収支改善には必要不可欠なものであり、今後も実施していきたい。 ・JRAの受託発売による業務委託料収入の増を見込んでおり、収支改善に資するため、平成25年春に向けぜひ実現したいと考えている。 		
委員会における主な発言	<ul style="list-style-type: none"> ・注目したいのはJRAとのジョイントで、かなり方向性が出てくると考えられる。それを見据えてどういう方向に行くのかを見極めたい。 ・IPATの効果をみてみたい。結構あるのではないか。ギャンブルに対する考え方も変わってきていると思う。そこが若い人を惹きつけるところなので、IPATの結果は見たい。 		

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考															
財 政 状 況	【財政支援の困難性】 大規模投資を行おうとしても、財源手当は限りなく難しい。 構成団体からの財政支援は、競馬事業に安易な税金投入となり、 県民、市民の賛同を得られない。	【財政状況について】 累積赤字＝繰上充用 H16 40 億 500 万円 H23 39 億 7600 万円	<借入に係る利息> H23:約 5500 万円															
	【資金繰りの行き詰まり】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年歳入不足を翌年度の歳入から繰上充用で補填 ・累積赤字約 3 7 億円及び運転資金は金融機関から一時借入で対応 ・馬券売上収入減少が続き赤字体質から脱却できない ＝これ以上の借入れは金融機関の理解が得られない ・資産売却による赤字補填等は県民・市民の十分な理解が必要 																	
	【付帯事業収入・資産売却】 <ul style="list-style-type: none"> ・競馬場を競馬事業以外の利用により、事業外収入の獲得が期待できるが、一部事務組合の競馬組合では、柔軟な利用には制約がある。 ・施設所有者と競馬施行者を分離等し、民間業者の参入により弾力的な企業的経営を導入する方法もある。 ・多額の累積赤字を抱え、資金調達が困難で設備投資ができない。 ・資産の売却益による資金調達も考えなくてはならない。 	【付帯事業収入について】 <ul style="list-style-type: none"> ・広大な敷地を利用した広告利用（H17～） 広告設置スペースの創出（有料） 【資産売却について】 17 年度末、名古屋競馬場北元 A 号駐車場用地（12,492 m ² ）を 14 億 9,217 万円で売却	<23 年度広告使用料収入> 年間 401,316 円（月額 33,443 円） <土地売却収入の支出先> 単位：百万円 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファンサービス・広報</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>施設設備</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>三連勝式馬券導入のための整備</td> <td>468</td> </tr> <tr> <td>臨時従事員の勸奨離職慰労金</td> <td>226</td> </tr> <tr> <td>財政調整基金積立金</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>経営再建事業推進基金積立金</td> <td>317</td> </tr> <tr> <td>土地鑑定評価事務費</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	金額	ファンサービス・広報	200	施設設備	150	三連勝式馬券導入のための整備	468	臨時従事員の勸奨離職慰労金	226	財政調整基金積立金	100	経営再建事業推進基金積立金	317	土地鑑定評価事務費
項 目	金額																	
ファンサービス・広報	200																	
施設設備	150																	
三連勝式馬券導入のための整備	468																	
臨時従事員の勸奨離職慰労金	226																	
財政調整基金積立金	100																	
経営再建事業推進基金積立金	317																	
土地鑑定評価事務費	31																	
競馬組合 の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・累積赤字等の状況は、16 年度と変わっておらず、厳しい状況である。 																	
委員会に おける 主な発言	<ul style="list-style-type: none"> ・前回提言での両論併記で、存続する方に関しては単年度収支が黒字であることが存続のための絶対的な条件であったが、平成 22 年度は単年度収支が赤字となった。 ・企業会計に基づいた形で本来はどうだったかと、しっかり見なくてはいけない。平成 16 年の時には、企業会計の導入を提言したが、現時点できていないということなので、資産をどう見てどう経営するという意識が進んでいないのか、なにかやれないことがあったのかわからないが、資産と経営をもっとしっかり見ないといけない。 																	

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況	参 考																		
	<p>【笠松競馬の影響】</p> <p>笠松競馬廃止されれば、そのファンの取り込みによって、名古屋競馬の売上が伸びるプラス要因も考えられるが、見通すことは難しい。</p> <p>笠松場外における馬券売上収入及び笠松競馬の場外発売により得ていた業務委託収入がなくなるといったマイナス要因は明らか。</p>	<p>【笠松競馬について】</p> <p>笠松競馬場運営継続中</p> <p>【馬券の相互発売額（H23）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋競馬の笠松場外等での馬券発売額 14.7億円(総売上146.9億円の10.0%) ・笠松競馬の名古屋場外等での馬券発売額 23.5億円(総売上109.4億円の21.5%) <p>【競走馬の交流状況（H23）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋所属馬の笠松での出走馬数 延べ1,224頭(笠松出走馬延べ9,147頭の13.4%) ・笠松所属馬の名古屋での出走馬数 延べ 901頭(名古屋出走馬延べ11,219頭の8.0%) 	<p>〈岐阜県地方競馬組合存廃について〉</p> <p>「一般財源の投入はしない、赤字発生の可能性が出た場合は年度末で廃止」との基本方針。 (H17.2 構成団体首長会議)</p>																		
	<p>【地元への配慮】</p> <p>名古屋競馬場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競馬場会館の体育室、図書室、大会議室等を地元住民に無料開放 ・3学区及び1つの町内会へ周辺環境整備として、昭和27年度から総額約12億円の補助金を交付 <p>弥富トレーニングセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥富町に対して公共施設整備として、昭和49年度からこれまでに総額約24億円の補助金を交付 	<p>【地元住民への配慮】</p> <p>競馬場会館の体育館等引き続き無料開放</p> <p>【地元への補助金は、廃止及び縮小】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋競馬場周辺3学区、1町内会への補助金をH17とH23に減額 H23 補助額：2,649,600円 ・17年度から弥富町への補助金交付を廃止 <p>【港警察署との覚書（H18～）】</p> <p>東海地震等の大規模地震の発生により、港警察署庁舎が損壊し警備本部及び指揮指令の機能に支障が生じた時は、名古屋競馬場会館及び駐車場の一部を提供する。</p>	<p>〈23年度会館利用状況〉</p> <p>年間利用日数：292日（日祝日含） 年間利用者数：14,829人（1日50.8人）</p> <p>〈名古屋競馬場は避難所指定施設に指定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容可能人数3,511人 ・災害用備蓄物資の保管 																		
その他	<p>【企業会計制度の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計方式が官庁会計方式 ・資産の評価や減価償却費の計上がなされていない ・競馬事業の実際の収益状況が不透明になりがちで競馬施設への投資方法や利益金の配分のあり方にも影響 ・企業会計制度の導入により、弾力的な予算執行を可能にし、競馬事業の経営状況を明確化できる。 	<p>資産等を含めた経営状況の的確な把握は、今後の経営改善に必要であるため、今年度、愛知県が実施する経営診断の中で作成される財務諸表をもとに、24年度決算から、財務諸表を作成していく。</p>	<p>〈地方競馬における今までの動き〉</p> <p>16年度に、地方競馬全国協会、全国公営競馬主催者協議会に、地方競馬における公営企業方式の統一的な会計基準の検討が行われ、「会計基準並びに作成マニュアル」を取りまとめた。</p> <p>〈地方競馬における地方公営企業法の一部適用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大井競馬場（特別区競馬組合）H15.4～ ・旧荒尾競馬場（荒尾競馬組合）H24.2～廃止 <p>※愛知県 25年度決算から新公会計制度導入</p>																		
	<p>【開催日数の縮小】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度の名古屋競馬の開催日数136日 ・兵庫県競馬組合170日、北海道市営競馬組合153日に次いで多い開催日数に見合うだけの売上が上がっているとは言い難い。 ・本場の入場者数及び売上が大きく減少している中では、開催日数を少しずつ削減する対応は通用しない。 	<p>【開催日数について】</p> <p>笠松競馬、金沢競馬との重複開催の調整などにより、開催日を縮小している。</p> <p>名古屋けいば開催日数の推移</p> <table border="1" data-bbox="1222 1539 1979 1633"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>16</th> <th>17</th> <th>18</th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> <th>23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催日数</td> <td>129</td> <td>128</td> <td>131</td> <td>129</td> <td>129</td> <td>130</td> <td>123</td> <td>122</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	16	17	18	19	20	21	22	23	開催日数	129	128	131	129	129	130	123	122	
年 度	16	17	18	19	20	21	22	23													
開催日数	129	128	131	129	129	130	123	122													

分類	平成 16 年当時の問題点	その後の対策、状況			参 考												
その他	<p>【聖域なき経費節減】</p> <ul style="list-style-type: none"> 競馬は、売上の75%を馬券払戻金として支払い、残りで競馬事業を運営しなければならない。採算に合わなければ賞金・諸手当、人件費、業務委託費等を思い切って削減することも必要であった。 経営診断において、賞金・諸手当、従事員賃金及び職員給与は、他の地方競馬場と比較して割高であると指摘。 賞金については、ファンの共感が得られる一つの要素で、ファン重視の視点に立って配分可能な財源をどのように賞金と諸手当とに配分するかが重要。馬主の意欲や、調教師、騎手及び厩務員等の生活を支えるものであるため、強い競走馬が流出、競馬関係者の士気の低下への配慮も必要。 	<p>【経費節減】 単位：百万円</p> <table border="1" data-bbox="1160 373 2211 1050"> <thead> <tr> <th data-bbox="1160 373 1347 443">区分</th> <th data-bbox="1350 373 1955 443">内容</th> <th data-bbox="1958 373 2211 443">決算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1160 445 1347 600">賞金・諸手当</td> <td data-bbox="1350 445 1955 600"> <ul style="list-style-type: none"> 23年度に賞金・諸手当単価の減額総額約17%カット (24年度も単価の減額を継続) </td> <td data-bbox="1958 445 2211 600"> H17：1,747 H23：1,439 (H23/H17比82.4%) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1160 602 1347 842">職員給与等の抑制</td> <td data-bbox="1350 602 1955 842"> <ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員 (H17：37人→H23：30人) 給与抑制 (H17からH24まで毎年度実施) H24の内容 期末手当抑制： 副管理者△30%、管理職△25%、一般職△20% </td> <td data-bbox="1958 602 2211 842"> H17：395 H23：293 (H23/H17比74.2%) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1160 844 1347 1050">物件費の抑制 (投票・清掃・警備・TV放映)</td> <td data-bbox="1350 844 1955 1050"> <ul style="list-style-type: none"> 投票業務における合理化・自動化 清掃業務における配置人員・回数の見直し 警備業務における配置の見直し TV放映業務における撮影箇所数の見直し </td> <td data-bbox="1958 844 2211 1050"> H17：841 H23：622 ※物件費H23は予算額 (H23/H17比74.0%) </td> </tr> </tbody> </table>			区分	内容	決算額	賞金・諸手当	<ul style="list-style-type: none"> 23年度に賞金・諸手当単価の減額総額約17%カット (24年度も単価の減額を継続) 	H17：1,747 H23：1,439 (H23/H17比82.4%)	職員給与等の抑制	<ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員 (H17：37人→H23：30人) 給与抑制 (H17からH24まで毎年度実施) H24の内容 期末手当抑制： 副管理者△30%、管理職△25%、一般職△20%	H17：395 H23：293 (H23/H17比74.2%)	物件費の抑制 (投票・清掃・警備・TV放映)	<ul style="list-style-type: none"> 投票業務における合理化・自動化 清掃業務における配置人員・回数の見直し 警備業務における配置の見直し TV放映業務における撮影箇所数の見直し 	H17：841 H23：622 ※物件費H23は予算額 (H23/H17比74.0%)	H24.6.20 改正競馬法が、参院本会議で可決、成立。 馬券払戻金率下限の変更(75%→70%) (3年以内に政令により施行予定)
区分	内容	決算額															
賞金・諸手当	<ul style="list-style-type: none"> 23年度に賞金・諸手当単価の減額総額約17%カット (24年度も単価の減額を継続) 	H17：1,747 H23：1,439 (H23/H17比82.4%)															
職員給与等の抑制	<ul style="list-style-type: none"> 職員数の減員 (H17：37人→H23：30人) 給与抑制 (H17からH24まで毎年度実施) H24の内容 期末手当抑制： 副管理者△30%、管理職△25%、一般職△20%	H17：395 H23：293 (H23/H17比74.2%)															
物件費の抑制 (投票・清掃・警備・TV放映)	<ul style="list-style-type: none"> 投票業務における合理化・自動化 清掃業務における配置人員・回数の見直し 警備業務における配置の見直し TV放映業務における撮影箇所数の見直し 	H17：841 H23：622 ※物件費H23は予算額 (H23/H17比74.0%)															
競馬組合の評価	<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率化や経費節減に努めているが、引き続き馬券売上に応じた経営を行っていく。 																
委員会における主な発言	<ul style="list-style-type: none"> 売上高に対する経費の割合は、非常に大きい問題である。 経営全般に対しての組織全体としてのベクトルが非常に弱い。 もし廃止等になると、雇用者の方々の就業の問題が大きな課題となる。 およそ年間100万人ぐらいが来て、1人あたりが使うお金が1万円から2万円の範囲で収まってくる。それで単年度収支が黒字になる経営構造の改革ができるかどうか、これに尽きる。 単年度収支黒字が存続のための条件である。それを達成できる経営構造改革ができるかどうか、これを慎重に検討する。 廃止によって雇用関係がどのような影響を及ぼすのか、またその雇用関係が社会に与える影響、もちろん経済的な負担ということを考えて、廃止していいものかどうかを検討する必要がある。 単年度収支の黒字化が大前提となる。 単年度黒字というのは条件だと思う。 競馬事業は被雇用者の方が多く、いろいろな階層の方がいる。 競馬組協議会の議員定数は前回委員会時と同じであり、削減はされていない。 資産売却益を、組合の経営に還元できるのかできないのか検討する必要がある。 																